

合同支部会が開催された

11月11日(土)14時から箱根湯本温泉「天成園」で10回目の合同支部会が開催された。冒頭岸部理事長は「衆院選で政権安定維持となり景気も緩やかな上向き傾向が続くことが予想され、業界としては好ましい状況になった」と挨拶され、**研修会**が始まった。まず橋本篤秀千葉工業大学名誉教授による「神奈川県！どうしたい～この業界を？」をテーマに講演があった。まだ多くの課題を抱えるこの業界の将来はどうあるべきか、鉄骨品質確保の系譜を辿りながら社会的地位・誇りと責任の自覚昂揚のために若い世代の人が良く考え、誇りのある職業へ、下請け意識の脱皮、ワクワク感のある業界へ転換していくよう提言された(要旨は別掲)。次に**研修Ⅱ**として新技術の紹介があり、①開先加工の簡略化、1パス施工、溶接変形の低減をもたらす厚板高能率溶接ロボットシステム②エコーのように画像で診断しパソコンに記録を残せるなどの利点があるが現行ではJASS6適用外で社内検査用に使えず値段も高いので、今後の改良等待たれる超音波フェーズドアレイ技術③鉄骨梁のウェブ貫通孔補強リングでのドーナツエイト工法について小原技術委員長などから説明があった。

組合からの連絡事項では、辻総務委員長から2年前から災害対策に取り組んできたが備蓄品充実のため新たに費用の一部助成を設けたので活用をお願いしたいとの話の後に、東京湾岸3都県での災害時相互支援協定を関東1都9県に拡大したことの説明があった。また、田中青年部会長から今年度取り組んできた5S運動(整理・整頓・清掃・



清潔・スマート)促進のためのスローガン「5S運動を推進し、3M(ムリムダムラ)を無くそう」の提唱と来年2



講演「どうしたい～この業界を？」要旨

この業界は半世紀の歴史があるが、品質管理、後継者不足など多くの課題を今なお抱えている。このままでよいのか。これら課題を考え対処していかないと発展はない。鉄骨品質について関係業界との責任のあり方が明確でない、特殊専門技術集団で社会資産の担い手であるこの業界は昔は鍛冶屋と呼ばれたが現在世間に披露できる業界名がない、下請けの立場に染まりきっている、全構協や各県組合などが何をしなければならぬか不十分、認定制度の在り方も改良の余地がある。これからの業界を担っていく若い世代の人たちが業界の将来を真剣に考えていくべきである。

工場を隅々まで把握し、JASS6など鉄骨製作上の規範の必要性を理解する人がいることは単にグレードを取得するだけでなく工場のポテンシャルを高めるために必要である。部材と接合部の複合体である鉄骨とは何かを問い、美しく安全安心な鉄骨の必要な性能は溶接品質だけでなく靱性も重要となる、阻害要因である天災・人災・倫理欠如の防止策、異業種界の連合体である鉄骨生産体制の連携をより図っていく必要がある。

鉄骨製作の歴史(鉄骨品質確保の系譜)では、千代田区が指摘した技術の未熟が社会問題となり、S51年に鉄骨問題懇談会が54年に鉄骨問題協議会が設置され、阪神大震災などの経験も踏まえながら品質確保のための改良がなされてきた。鋼材のJIS規定、ミルシートの適正運用、鋼材識別対策、基準類の一元化、製作管理技術者などの建築分野の専門資格制度の制定などが挙げられる。全構協もその都度早めに対応してきた。

社会は50年間同じということはない。業界も変革を遂げる。多品種少量生産型から分業・專業型に変わっていくだろう。変革の内訳としては購入材料の付加価値の上昇、加工機械の高性能・精密化、競争の激化、労働集約から知識集約化、品質管理保証体系の充実、ラインの見直し・コンピュータ化などが進められる。

ファブ自身がこうしたいという意識を強く持ち、誇り・責任を実感する職業へ！下請け意識を払拭してワクワク感のある業界へ脱皮してほしい。そのために自助努力と全構協等の力もうまく活用されたい。

月に企画している実地研修会について報告があった。

その後各支部会が開催され、18時から**賛助会員との交流懇親会**が開かれ、二次会も含め遅くまで盛況であった。

Mグレード部会の開催

11月16日(木)15時から組合事務所にて開催。10月に部会員に対し調査した鉄骨工事価格等の集計結果について話し合われた。鉄骨価格工事は20t、50tのケースごとに工作図原寸、工場加工、塗装、消耗品、超音波社内検査、運搬及び建て方、現場鉄工、タッチアップのトン当たり各経費を項目として上限・下限値を除いて18社の平均値を求めた。調査では実際の請負費をデータにすることになっていたが、見積金額を想定させる回答も見られ、今回の調査では十分な適正値を得られるものではなかったようだ。また、鍛冶工事、鳶工については常備、法定福利、溶接機材、消耗品、交通費などの経費項目について人工ないし日を単位として調査したが、見方がわからなかったためか回答無しが結構あり、コメント付きの回答は数値化が難しい面もあった。今後の調査のためには標準図を付ける、項目ごとの単位をt、㎡、箇所などを適正選択することにより正確な回答が得られるよう協議した。この調査は不定期とし必要に応じて実施することで合意した。その他第二弾の調査



として付帯工事関係の単価調査を行うための様式などについて意見交換した。第三弾の調査は運搬経費について調査する方向を確認して終了した。調査結果は部会員間の情報共有に供されることである。参加は11社だった。

性能評価事前研修会の開催

11月13日(月)15時から組合事務所で後期工場審査受検企業に対し開催された。性能評価委員会の石井委員長、星委員、岸部委員を講師として工場審査に臨んでの注意点、基準類の前回改正ポイントを中心に解説があった。神奈川の特徴である規模が小さい工場では生産効率向上、労災防止などのほか審査臨む姿勢の好印象を示すためにも特に整理整頓が必要であることが力説された。また、Mグレードの管理責任者の管理技術者兼務が33年度末で解消(申請時点では31年度から)されること、また、今回新規グレード取得2社が参加した。新規グレード取得の場合は1年前ぐらいからまず申請書を作成し、基準類を整備しておくなどの準備を万全に進めておくことが大事であるなど提言があった。参加者は6社10名だった。

関東支部女子職員研修会が開催された

11月2日(木)新宿にある小笠原伯爵邸にて関東支部女子職員研修会が行われた。岸部支部長(理事長)幹事の大竹理事長も参加し1都9県、総勢14名が参加



。各県の状況報告を発表した。関東支部会事務局担当の神奈川県からは支部についての説明や円滑な支部運営へのお願い等をした。他県では、賦課金についての聞き取りや資格取得の話等がでた。その後おいしい食事に舌鼓を打ちながら、日々の業務を忘れて懇親と慰労を兼ねて歓談した。最後に岸部支部長が組合員へ資格取得を促してほしいと話され、お開きになった。
[小宮]



全国RJグレード部会からの報告 [菅原]

11月17日(金)15時より「京都 浜町」(京都市中央区)にて全国R・Jグレード部会連絡会役員会が開催され、各都府県より役員10名が参加しました。

松枝会長(大阪)挨拶の後、各県近況話しを挟みながら和気あいあいの雰囲気の中会議が進められました。議題の一つ会員拡大の取組については、R・J部会が存在しない県も多く、なかなか会員が増えない現状なので、今後とも継続して会の活動を活発にすると共にこれをPRする事が確認され、部会独自で行っている月次報告(山積み、資材・機材動向調査)の回収率を上げ、より正確な情報を提供することや、事務局発行のR・J部会情報誌「かしめ」に各県部会の活動内容を紹介していきます。

その他、工場見学会の実施検討、超音波探傷機器の情報交換等行いました。また、



30年度総会は3月9日(金)静岡県静岡市にて開催が決定しました。会議終了後、同室で京都府青年部会員も加わり懇親会が開催され大盛況の後解散となりました。